

上富良野町

三上 祐典

1.概要

1854～1860年に探検家松田市太郎、松浦武四郎らがこの地を踏査し、1886年道庁設置の直後、植民地に選定されて牧畜の最適地と認められた。1897年富良野盆地の草分け地区に、三重県団体の入植で開拓の斧と鍬が下され、やがて現在の上富良野と富良野間に鉄道が開通して、急速に人口増加の途をたどった。農耕と牧畜の豊かな村として発展し、1903年に下富良野村（現富良野市）1917年には中富良野村を分村、1918年に1級村制の施行となった。順調な発展を続けていたが、1926年に十勝岳が大爆発を起こし、泥流の山津波は約25分で25kmを下り、沃野、鉄道、人家を襲い死者・行方不明者144名の大惨事となった。しかし、2回目の開拓ともいわれる大変な再建への苦労の末、被災地の田畠は1928年にはほぼ復旧、その後10余年で9分通りの収穫を得て復興に成功した。戦後の1951年町制を施行し、1953年陸上自衛隊の演習場設置と部隊駐屯で、これまでの農村中心の町から商業などがめざましく伸長して、農村部・都市部のバランスのとれた町に成長を続けてきたが、現在は農村部の過疎化が深刻なほど進行している。この間社会が変わるにつれ、1960年代末から十勝岳連峰への登山基地、温泉保養、ラベンダー、丘陵の景観などを資源とする観光事業にも力をいれ、多くの来訪者をひきつける観光地ともなっている。「上富良野」の由来は、当初「富良野村」と称していたが1903年に富良野村を分轄するに当たり、富良野川の上流に位置するところから「上」の字を冠して「上富良野村」と改めた。

1.1 上富良野町の位置

上富良野町は、北海道のほぼ中央部、東経142度41分25秒、北緯44度32分55秒に位置し、北から東にかけて美瑛町と新得町、南富良野町、南から西にかけては富良野市と中富良野町に隣接している。旭川市へは約46km、旭川空港へは約35km、札幌市へは約140km、帯広市へは約136kmの距離にある。

図1:上富良野町の位置



出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

1.2 上富良野町の気候

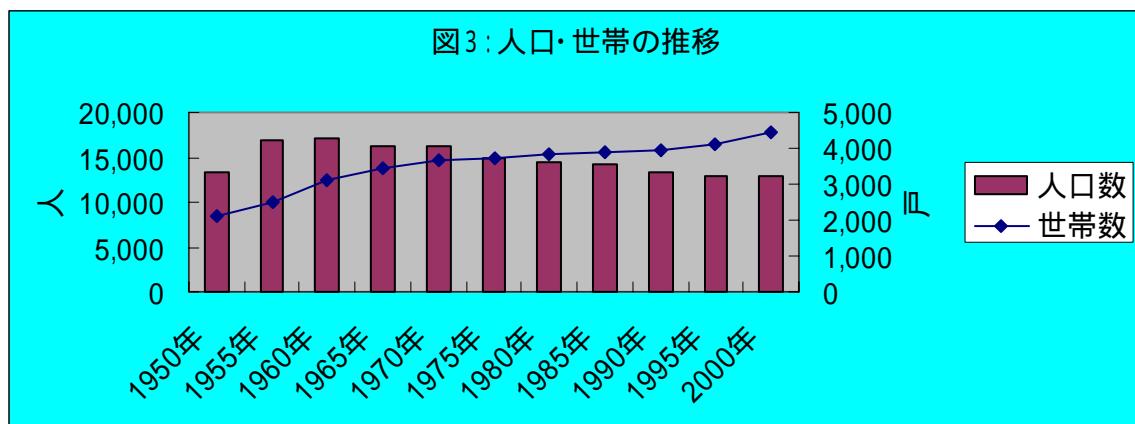
図2:上富良野町に気温グラフ



出典：上富良野町ホームページ

富良野の気候は、総体的に北国特有の冷涼さのほかに、気温の日較差と年較差が大きく年を通じて年間降水量が少ない、内陸性の気候である。このグラフを見てみると、上富良野町の最高気温は3月の中旬までは、0 を超えることはないが、4月から徐々に上がり8月の中旬には24 を超え27 近くまであがる。8月中旬以降は、徐々にさがり長い冬をむかえる。最低気温も最高気温と同等8月中旬までどんどん上がり続け、それ以降はさがる。

2.上富良野町の人口・世帯数の推移の比較



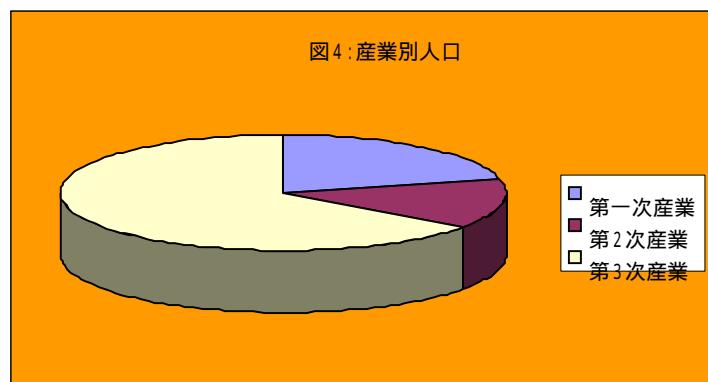
グラフを見ると、人口推移は1960年に最大の17,101人になったが、その後は減少傾向である。それに対し、世帯推移は上昇傾向にある。また、人口推移で1950年と1955年比

較での大増加は、1955 年に自衛隊上富良野駐屯地が新設されたためで、1960 年代から現在も続く減少は、離農による農業関連者とこの影響を受けた商業者の転出が大きな原因である。

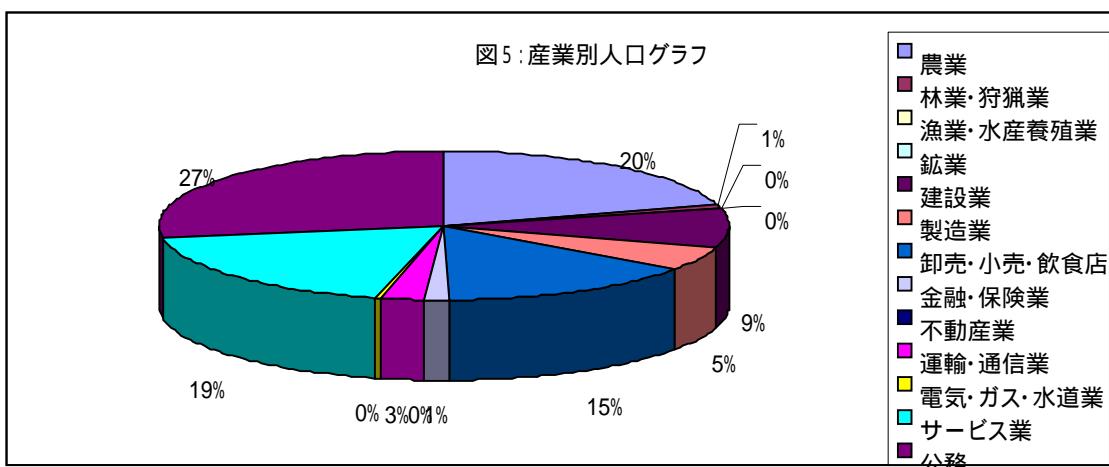
3. 上富良野町の産業

上富良野は、農業を基幹産業とする町であるが、後継者の不在や農産物価格低迷による営農環境の悪化などによって、離農が続いている農業者は減少を続けている。町の東方には、大雪山系十勝岳の連峰が美しい山並みを見せている。この十勝岳は、噴煙を上げて活動を続ける火山で、周期的に噴火災害をもたらす一方で、地の恵みである温泉を湧かせている。また、上富良野を発信地として、初夏の丘を紫に彩るラベンダーは、北海道の顔ともなつてあり、来訪者をお迎えする観光の町でもある。最近は、なだらかな丘陵とパッチワーク模様の農作物、背後にそびえる連峰が織りなすダイナミックな風景が、多くの来訪者を魅了している。また、「卸売・小売・飲食店」「サービス」従事者も多い。上富良野町には、基地の町というもうひとつの顔がある。陸上自衛隊の駐屯地があり、十勝岳連峰の裾野には、広大な演習場が広がっている。

3.1 産業別人口比



第一次産業、第二次産業、第三次産業の就業者数は、第一次産業が 1475 人、第二次産業が 987 人、第三次産業は 4567 人である。第一次産業で一番多いのは、農業の 1430 人である。第二次産業は建設業の 607 人、第三次産業は公務の 1937 人が多い。次に示したグラフはさらに詳しく表記したものである。

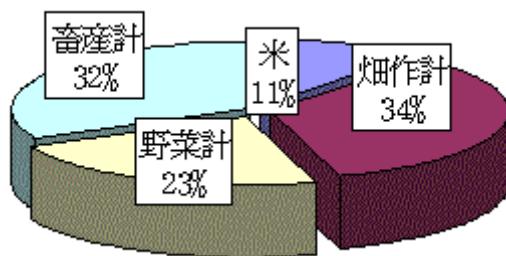


このグラフをみてわかるとおり、上富良野町は農業人口が多い。他にも卸売・小売・飲食店、サービス業も多い。これらが多いのはやはり、上富良野町が観光名所でもあるからだろう。上富良野町は内陸なので、漁業・水産養殖を行なっている人はいない。

3.2 上富良野町の農業

一戸当たりの経営面積は 12ha であり、水稻、畑作と野菜等との複合化により経営の安定化を進めている。畑作では透排水性改善や輪作など土づくりにより収量・品質向上を図っている。園芸の産地振興を推進するため、重点推進品目の奨励や農産加工処理施設・集出荷施設の整備を進める中で生産農業所得の向上を図っている。2000 年の北海道農業基本調査によると、専業農家は 205 戸であり、第一種兼業農家は 235 戸、第二種兼業農家は、54 戸である。家畜飼育も行っており、乳用牛の飼育頭数は 1281 頭、肉用牛の飼育頭数は 2527 頭である。2002 年の農業基本調査で農業産出額のトップは、野菜類であり順に水稻、麦類豆類である。ちなみに野菜類で一番農業産出額が多いのは、てん菜である。農業産出額を大きくまとめると、畑作が 34%、野菜が 23%、畜産が 32%、米が 11% をしめている。そして、上富良野町の農業産出額は 7780 万円である。

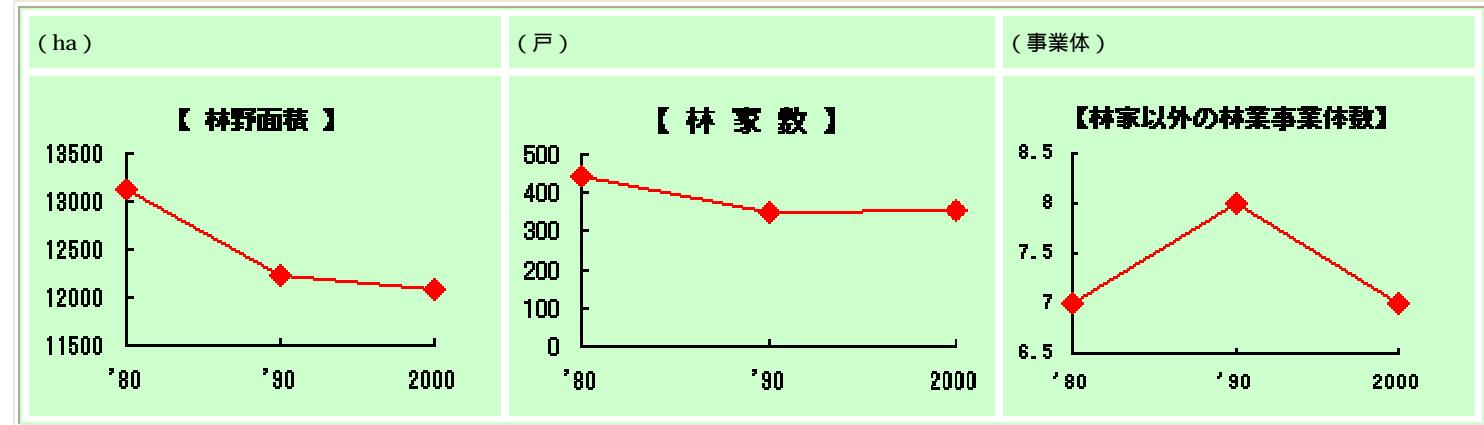
図6:上富良野町の農業産出額



出典：北海道農林水産統計情報 H14 年～15 より

3.3 上富良野町の林業

図 7:上富良野町の林業について



出典:農林水産省「2000年世界農林業センサンス」による

このグラフを見てわかるとおり、林野面積は 80 年代からずっと低迷し続けている。林家数は、80 年代から、減ったものの 90 年代からは、あまり変わっていない。林家以外の林業事業対数は、80 年代から増えたものの 90 年代から 2000 年にかけて減り続け、2000 年には 80 年代と同じに戻ってしまった。林種別森林面積は、人工林が 4794ha であり、天然林は 3539ha である。

4.観光

上富良野町には、上富良野 5 大名所と呼ばれるところがある。その 5 大名所と呼ばれている場所は、かんのファーム、フラワーランドかみふらの、博物館土の館、後藤純雄美術館、吹上温泉である。「かんのファーム」は、美馬牛峰の国道沿いにあり、旭川方面からだと最初のラベンダー畑である。ラベンダーやポピーが咲き乱れ、テレビや新聞にもよく登場して、丘の上の東屋への散策が楽しいと言われている。「フラワーランドかみふらの」は、1992 年開園。富良野沿線の観光花畑では唯一入場料を取る施設で、他のラベンダー園とは一線を画す。ジャーマンアイリスがメインであり、トラクターバスによる園内回遊が人気である。「博物館土の館」は、上富良野で創業した日本最大手のプラウメーカー・ガノ農機の博物館である。土の博物館というのは珍しい。2004 年 10 月北海道遺産に選定された。「後藤純雄美術館」は、風光明媚な丘の畑の中に建っている。後藤純雄は日本画の巨匠である。入館料は高いが一見の価値あるだろう。「吹上温泉」は、旧銀荘は専ら山スキーの基地として有名で、三笠宮殿下も毎年訪れていた。

4.1 上富良野町の名産品

上富良野町の名産品は2つある。一つ目はラベンダーエッセンスオイル、二つ目は地酒である。



このラベンダーエッセンスオイルは、上富良野産ラベンダーを100%使用し、町内で抽出されたピュアエッセンシャルオイルである。この抽出されたオイルは淡い金色に輝くとともに香しい香りを放つものである。ラベンダーエッセンシャルオイルは6ml箱入り1050円である。



地場産の良質米を厳選して、造られた地酒は 北国ならではのまろやかなコクのあるおいしさにできあがっている。吟醸酒「北の浪漫紫人」と呼ばれるお酒は720mlで2,241円であり、純米酒「紫のときめき」と呼ばれるお酒は720mlで1,120円、1,800mlで2,038円である。ぜひ飲んでみてはいかがでしょうか。

参照 上富良野町ホームページ <http://www.town.kamifurano.hokkaido.jp/index.html>

上富良野町の位置 <http://hp.town.kamifurano.hokkaido.jp/>